



20250622 猪高の森自然観察会 2025年6月報告書

## 猪高の森自然観察だより 2025・6月号

開催日時：2025年6月22日（日）

天候：曇り時々晴 気温：最低 24.2°C、最高 30.3°C  
(名古屋に於いて)

参加者：26名（内 NACS-J 会員 4名）

（左上の画像はムラサキシキブの花。画像は猪高緑地以外で写したものも含んでいます）

テーマ：初夏の森で見つけたものは？

コース：森の集会所 → シダレザクラの里 → こもれび池 → 森の集会所

梅雨入り宣言があったと思ったら、27日には九州、四国、中国、近畿など西日本は、最速の梅雨明けが発表されてしまいました。東海はまだ先とのことですですが、35°C以上の猛暑日もすでにあり、観察会時の注意も数年前と変わってきています。時間や道のりを短くしたりして続けていきたく思います。（7月4日、東海地方の梅雨明けが宣言されました。最終的な梅雨明け時期の決定は、細かい気象状況の検討の上で、9月に出されることがあります。）

○ネジバナって「一期一会」の花！？



梅雨の時期になると芝生などの草地にきれいなピンク色の花を咲かせて楽しませてくれます。

右巻きと左巻きの比率は1:1の割合で、捻じっていない株もあります。

江戸時代から栽培されていたラン科の花ですが、同一個体を長い間栽培するのは大変難しいとされています。ひとつの株の寿命も短くて、短期間に世代交代を繰り返して繁栄しているため、今年見られても翌年には全く見られなくなってしまうこともあります。

2023年にこのネジバナの新種「ハチジョウネジバナ」が発見されました。一般的のネジバナに比べて開花が早く、4～5月に咲きます。詳しくは、下のサイトを見ていただくと良いでしょう。

言い換えれば、来年はそこでは見られないかも知れない花です。ある意味「一期一会」の花なのでしょう。

[https://www.tohoku.ac.jp/japanese/newimg/pressimg/tohokuuniv\\_press0320\\_01web\\_garden.pdf](https://www.tohoku.ac.jp/japanese/newimg/pressimg/tohokuuniv_press0320_01web_garden.pdf)

## ○ハプニングが次々と…！？

### その①



6月21日に「名古屋市環境局環境企画課」が取りまとめ役となり、環境デーなごや地域行事「身近な自然体験会」の一環として猪高緑地にて「森と田んぼ・自然いろいろ発見隊出発！」を開催しました。

森の集会所から田んぼに向かう途中の散策路での出来事が、上の2枚の画像です。

左は蛇のアオダイショウが2匹モグラを絞めていました。右が絞められていたモグラです。

周囲の雰囲気に驚いたのか、2匹のアオダイショウは逃げ、モグラが取り残されるという、アオダイショウにとってもかわいそうな状況になってしまったのですが、参加の方々もちらもびっくり！初めての体験でした。

### その②



左の写真は穴を掘っている姿。堤体の上方に頭が向いています。

右が産んでいた卵。現在、ミシシッピアカミミガメの総数は在来種のカメの総数

より多くなっているとのことでしたので、可哀想ですが、ほりあげ処分にさせて頂きました。

ミシシッピアカミミガメは、アメリカザリガニとともに「条件付き特定外来生物」に指定されています。

一般家庭での飼育は引き続きできますが、野外への放出、輸入、販売、購入、頒布(広く配ること)などは禁止されています。今、ご家庭で飼われている方は最後まで責任を持って飼育してください。又、野外でみつけても、捕獲したり持ち帰ったりしないでください。

○緑地で見つけたいいろいろ(順不同です)





この時期は、「特にこれ！」という題材は少ないのですが、細かく見ていくことによっていろいろな生き物たちを観察できます。 ハムシの仲間はよく似ていますが、美しい色をしているものが多いですし、コブシの実は名前の由来がよく分かります。



左のアカボシゴマダラは在来種のゴマダラチョウやオオムラサキと競合するとされています。今年は、猪高緑地、明徳公園、他で確認されました。（画像は八竜緑地にて）



次回観察会は7月27日（日）森の集会所集合 9:30～です。

（雷注意報発令時または熱中症の発生する危険のある場合は中止）

名東自然俱楽部のHPでは毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

<https://sizen.ciao.jp/>から是非ご覧になってください。

（右上の自然観察グループをクリックしてください。）